

CHAPTER 3

資料・分析編

市民アンケート結果

3.1

1.目的

宮崎市都市計画マスタープラン改訂に住民の意見を反映させるため

2.対象

住民基本台帳に基づく市民18歳～80歳のうち無作為抽出された3,000人

3.期間

2023(令和5)年10月6日～10月31日(12月15日着分まで集計)

4.内容

今後想定される人口減少や少子超高齢社会を踏まえたまちづくりのあり方、
住み方、日常生活での移手段等

5.回答率

43.2% (1,296票/3,000票)

6.調査結果の分析

回答結果は単純集計の他、下記の地域別、年代別、子育て・高齢者のみ世帯別に区分し、分析を行いました。

- ・ 宮崎地域
- ・ 29歳代以下
- ・ 中学生以下を含む世帯
- ・ 佐土原地域
- ・ 30歳以上49歳以下
- ・ 高齢者のみ世帯
- ・ 田野地域
- ・ 50歳以上69歳以下
- ・ 高岡地域
- ・ 70歳以上
- ・ 清武地域

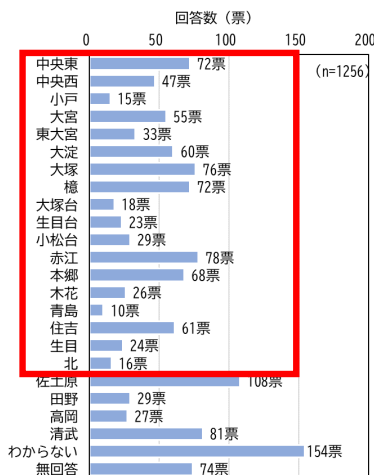
※ 上記の分類名には必ずしも該当しない回答者もありますが、各世代の分類意図をわかりやすくするために、一般的に認識されている各世代のイメージを表現したものです。

3.2

3.2.1 回答者の属性

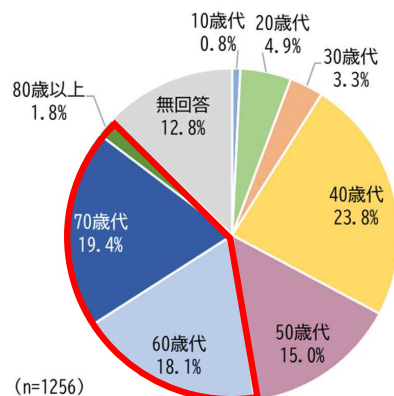
(1) 回答者の居住地

- 回答者の居住地は、旧宮崎市内が約4割を占めています。



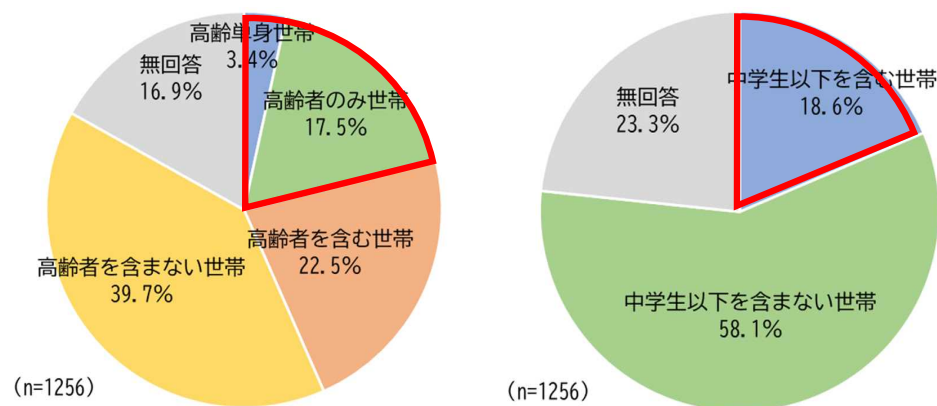
(2) 回答者の年代

- 回答者の年代は、60歳以上が約4割を占めています。



(3) 回答者の世帯構成

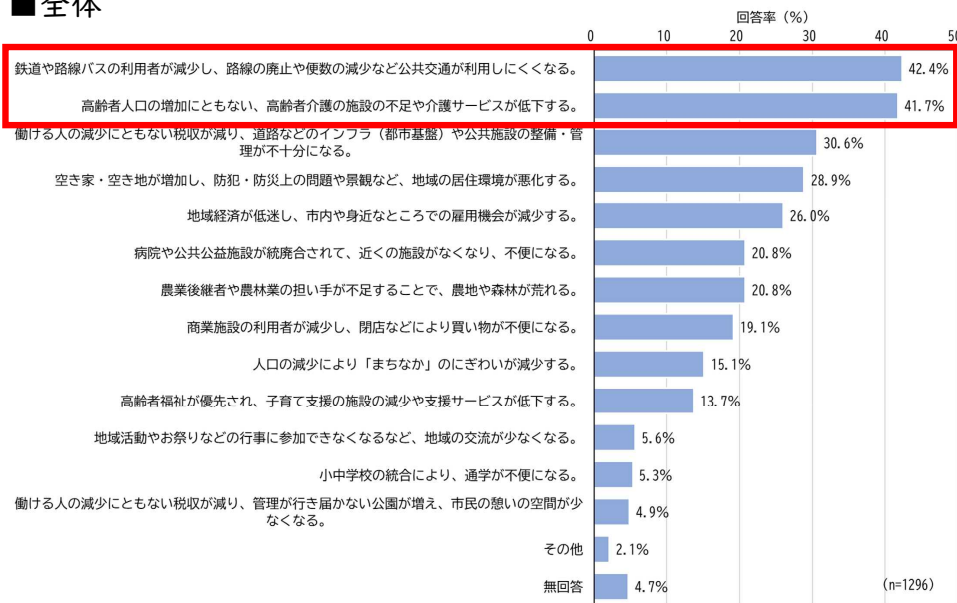
- 中学生以下を含む世帯(子育て世帯)は約2割を占めています。
- 高齢者のみ世帯も約2割を占めています。



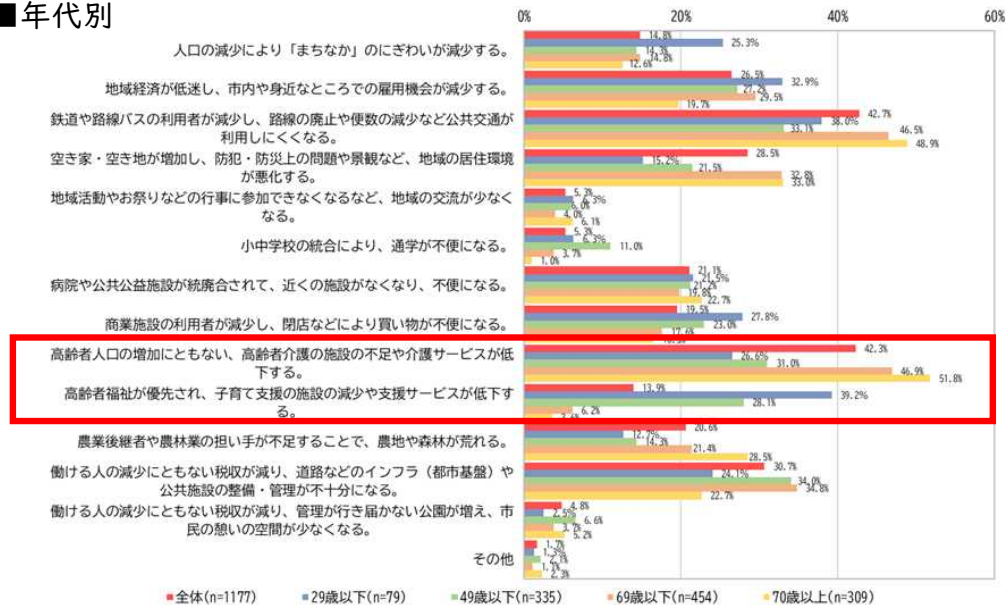
3.2 3.2.2 人口減少・少子高齢化が進むことにより予想されるまちづくりに対する影響

- 『高齢者介護・福祉機能の低下』、『公共交通の利用環境の悪化』への関心が高くなっています。
- 49歳以下では、『子育て支援施設の減少や支援サービスの低下』への関心が高くなっています。
- 50歳以上では、『高齢者の介護施設の不足や介護サービスの低下』への関心が高くなっています。
- 子育て世帯では、『子育て支援施設の減少や支援サービスの低下』への関心が高くなっています。
- 高齢者のみ世帯では、『公共交通の利用環境の悪化』、『高齢者の介護施設の不足や介護サービスの低下』への関心が高くなっています。

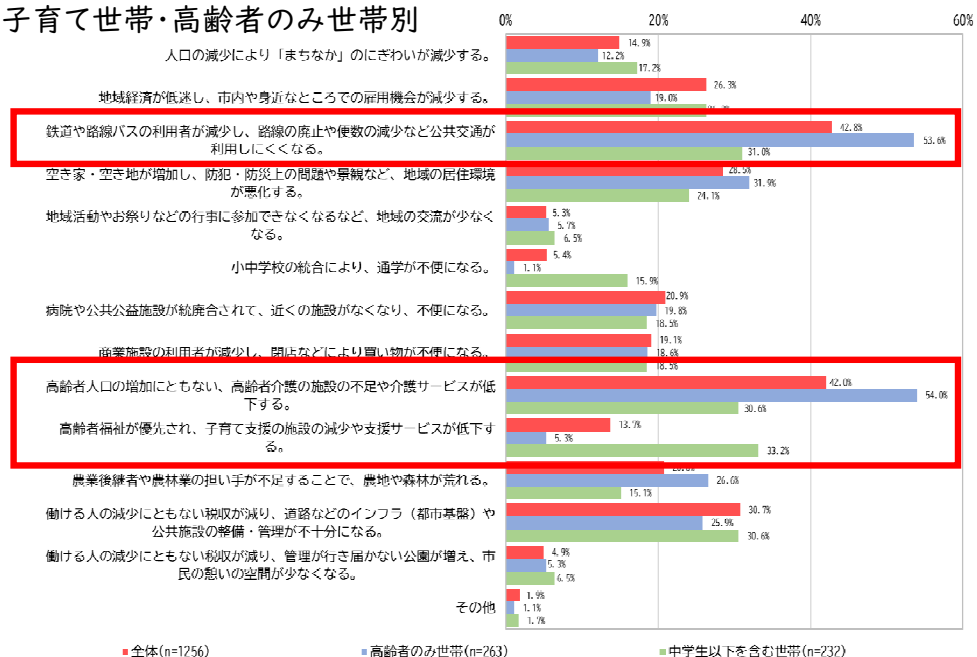
■全体



■年代別



■子育て世帯・高齢者のみ世帯別

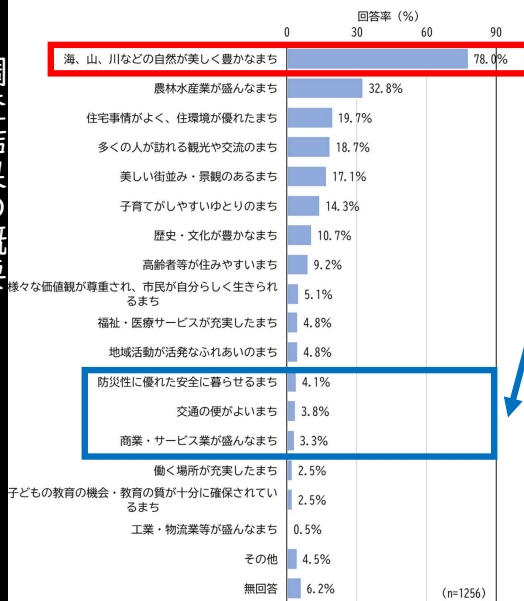


調査結果の概要

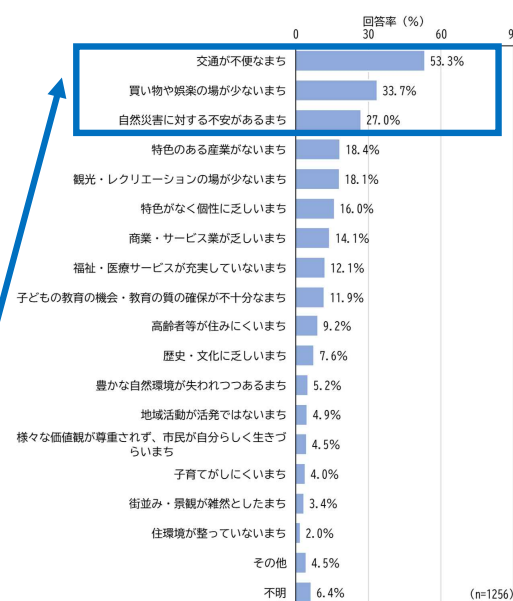
3.2 3.2.3 「現在の宮崎市」に対する良いイメージ・悪いイメージ

- 良いイメージは『海、山、川などの自然が美しく豊かなまち』というイメージを持っている人の割合が最も高くなっています。
- 一方、悪いイメージは『交通が不便なまち』が最も高くなっており、『買い物や娯楽の少なさ』や『自然災害に対する不安』など、良いイメージで割合が低い項目が上位に挙がっています。
- 良いイメージは、30歳以上69歳以下で、『多くの人を訪れる観光や交流のまち』、『美しい街並み・景観のあるまち』の割合が高くなっています。
- 悪いイメージは、29歳以下で『買い物や娯楽の場が少ないまち』『観光・レクリエーションの場が少ないまち』が高くなっています。

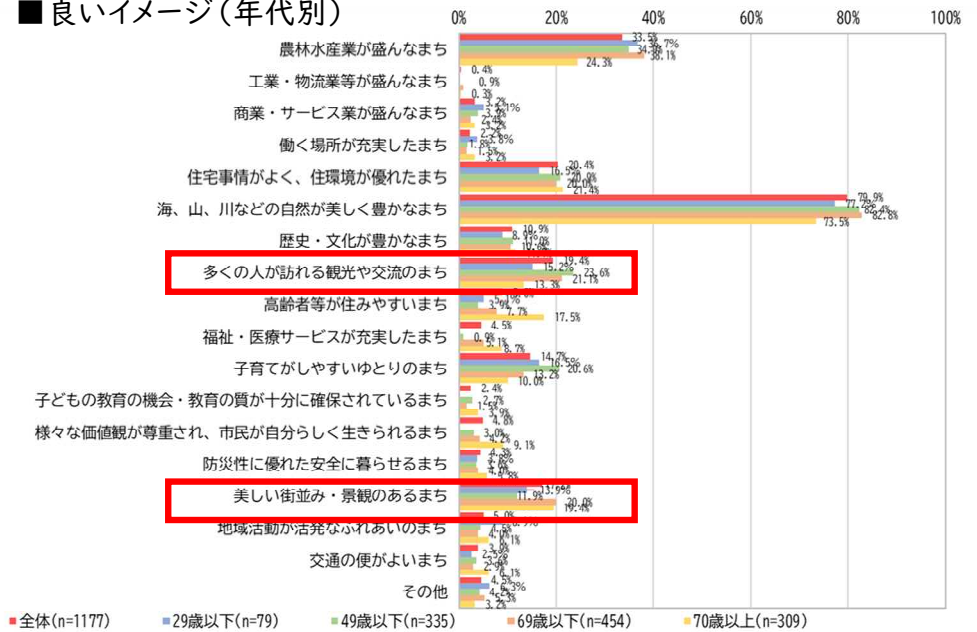
■ 良いイメージ



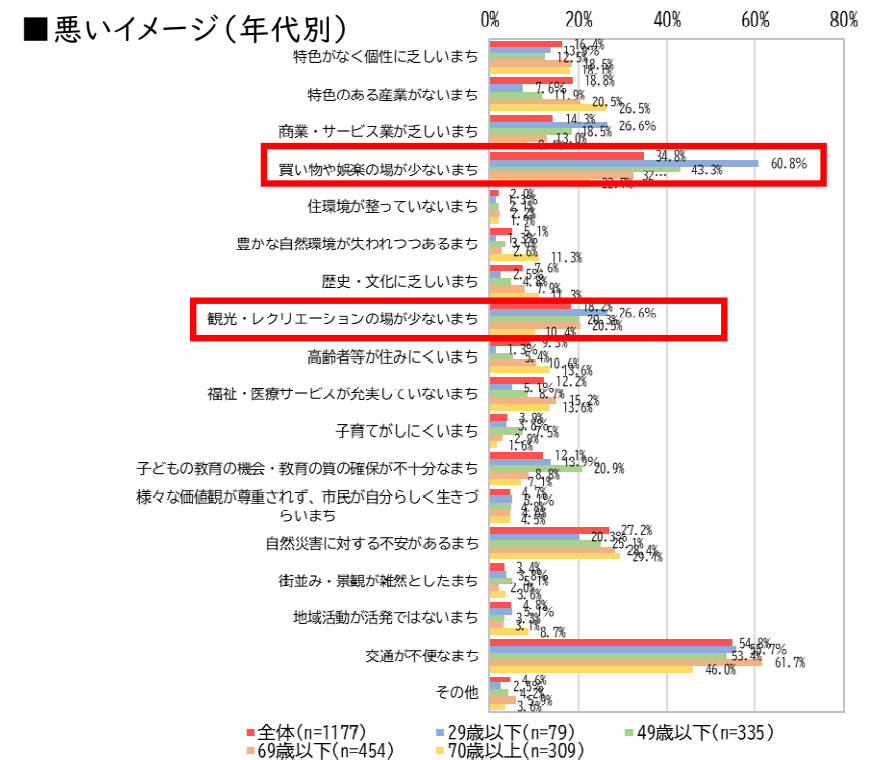
■ 悪いイメージ



■ 良いイメージ(年代別)



■ 悪いイメージ(年代別)

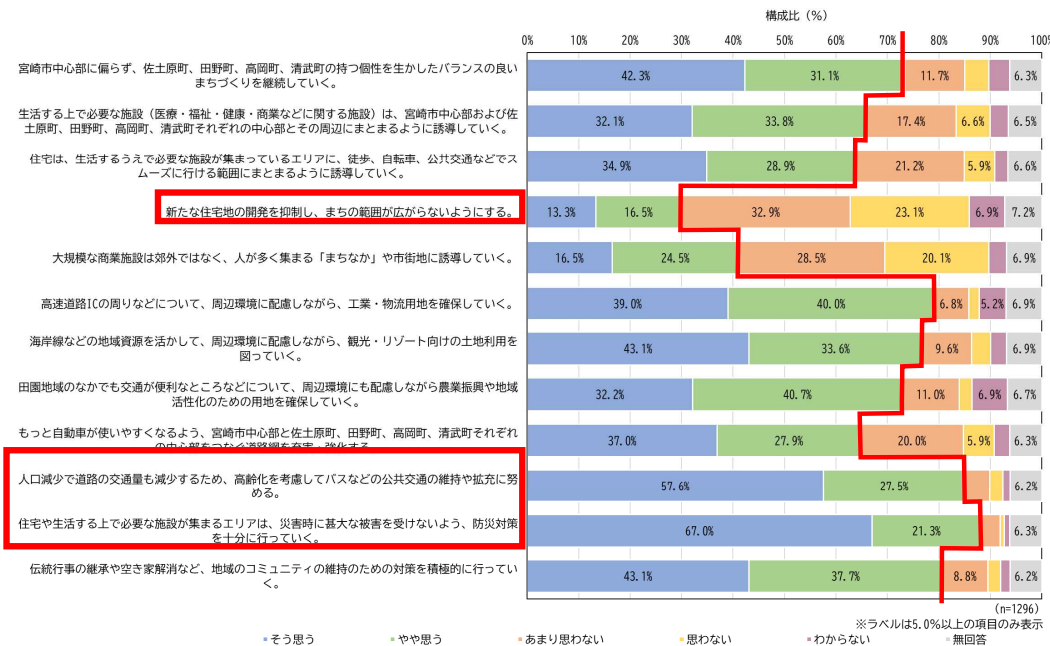


調査結果の概要

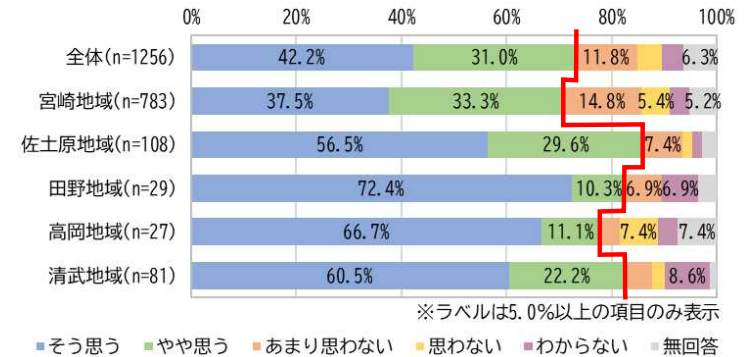
3.2 3.2.3 これからの宮崎市が目指すべきまちづくりの方向性

- 『『そう思う』と明確に肯定的な意思を示した割合が高いのは『防災対策を十分に行っていくこと』、『公共交通の維持や拡充に努める』、『地域コミュニティの維持』、『工業・物流用地の確保』です。
- 一方で、『『そう思わない』と明確に否定的な意思を示した割合が高いのは、『住宅地の開発を抑制し、まちの範囲が広がらないようにする』、『郊外の大規模商業施設の立地抑制とまちなかへの誘導』です。
- 『宮崎市中心部に偏らず、各町の持つ個性をいかしたバランスの良いまちづくりの継続』は、宮崎地域以外の郊外部で『『そう思う』の回答割合が高くなっています。
- 『生活するうえで必要な施設が集まっているエリアへの住宅の誘導』は、29歳以下で『『そう思う』の回答割合が高くなっています。
- 『住宅地の開発を抑制し、まちの範囲が広がらないようにする』については、佐土原地域で特に否定的な回答割合が高くなっています。

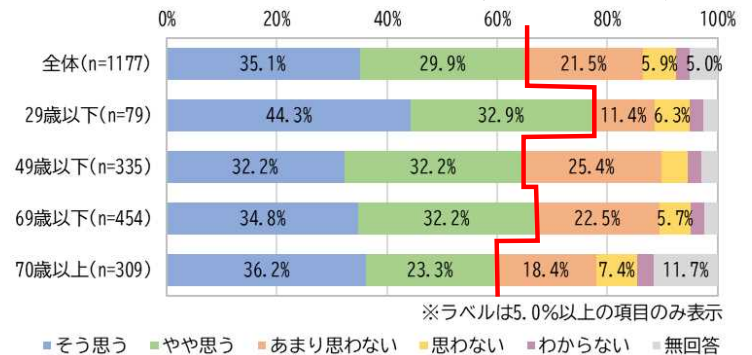
■ 宮崎市が目指すべきまちづくりの方向性



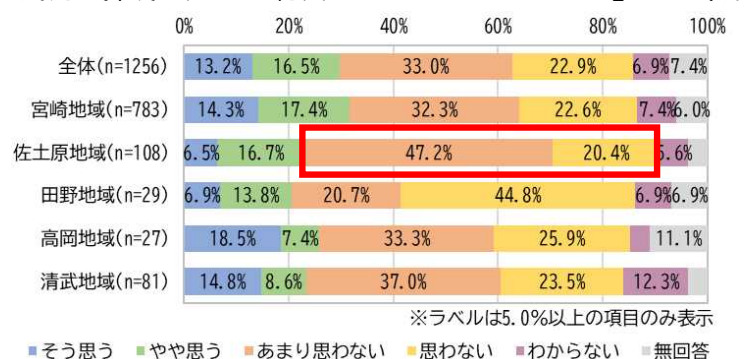
■ 『バランスの良いまちづくりの継続』の年代別回答



■ 『必要な施設が集まっているエリアへの住宅の誘導』の年代別回答



■ 『住宅地の開発を抑制し、まちの範囲が広がらないようにする』の地域別回答

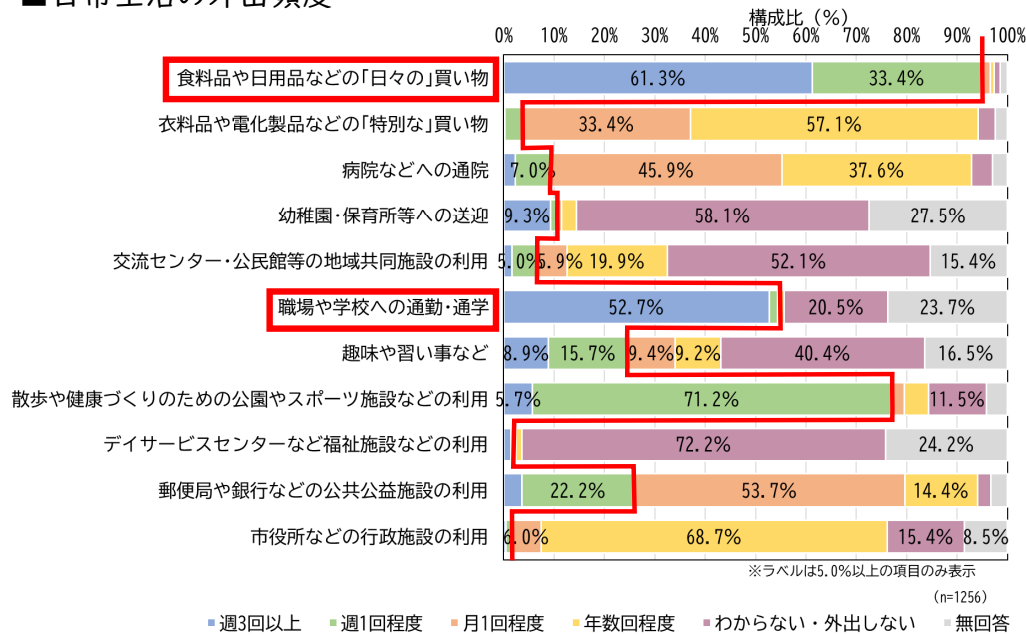


3.2 3.2.4 日常生活の中の様々な「活動」の状況

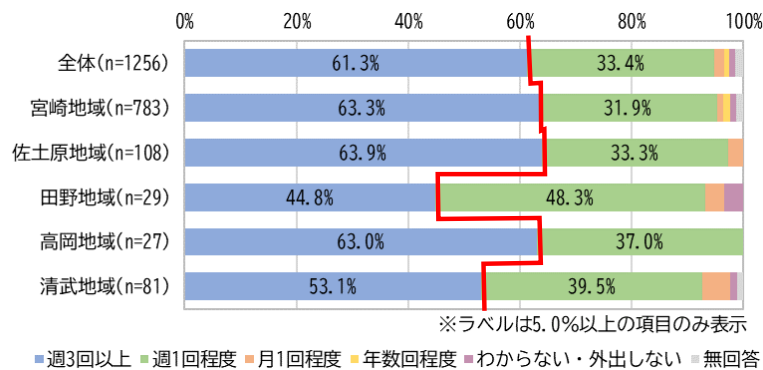
(1) 外出頻度

- 週1回以上の頻度で『日々の買物』、『通勤通学』、『公園やスポーツ施設の利用』で外出している割合が高くなっています。
- 日々の買い物の外出頻度は地域別では田野地域、清武地域で『週3回以上』の割合が低い傾向にあります。

日常生活の外出頻度



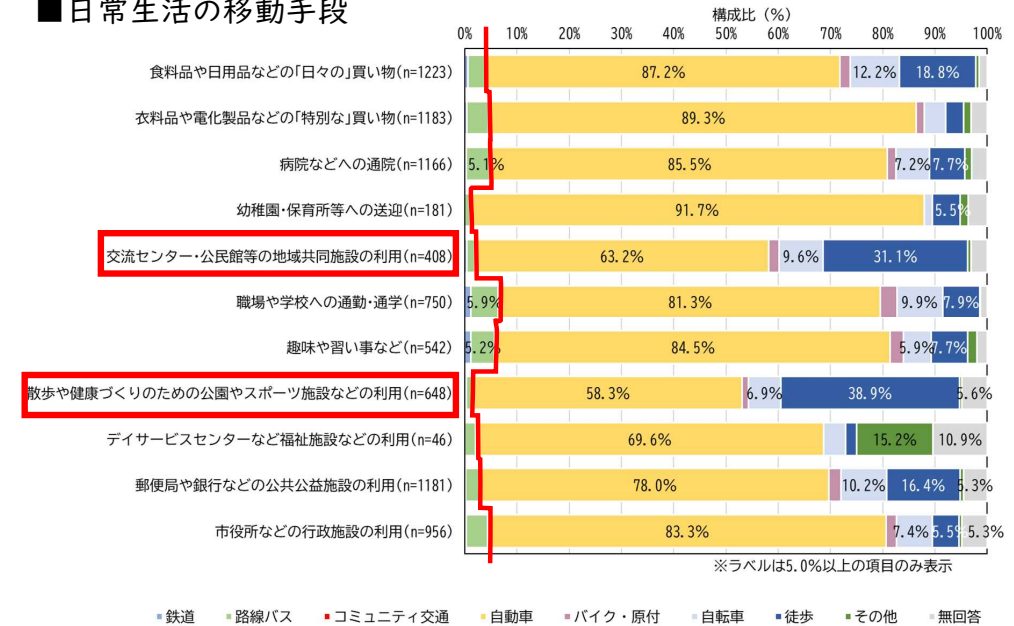
日常生活の外出頻度(地域別)



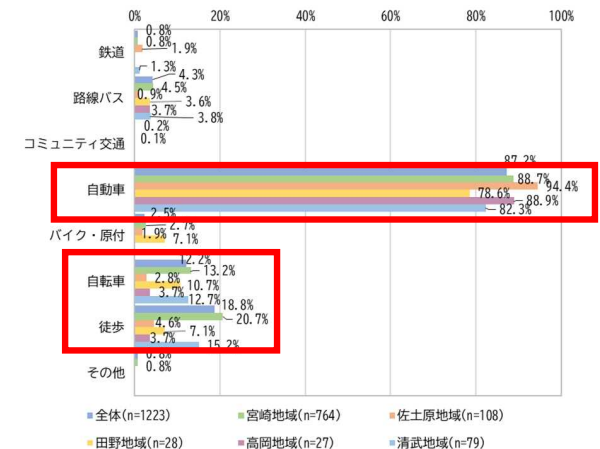
(2) 移動手段

- あらゆる活動で『自動車』を使用する割合が最も高くなっており、改めて本市が車社会であることを裏付けています。
- 地域共同施設や公園、スポーツ施設の利用では、『徒歩』、『自転車』での移動の割合が高くなっています。
- 宮崎地域では『徒歩』『自転車』の利用割合が高いです。

日常生活の移動手段



日常生活の移動手段(地域別)

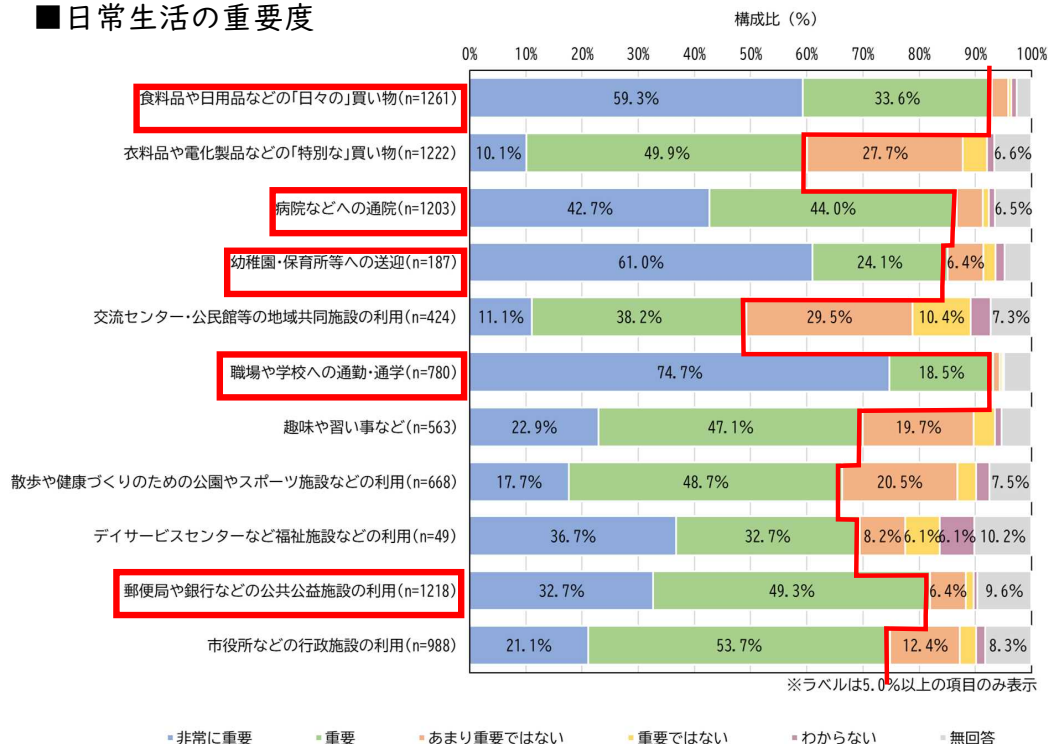


3.2

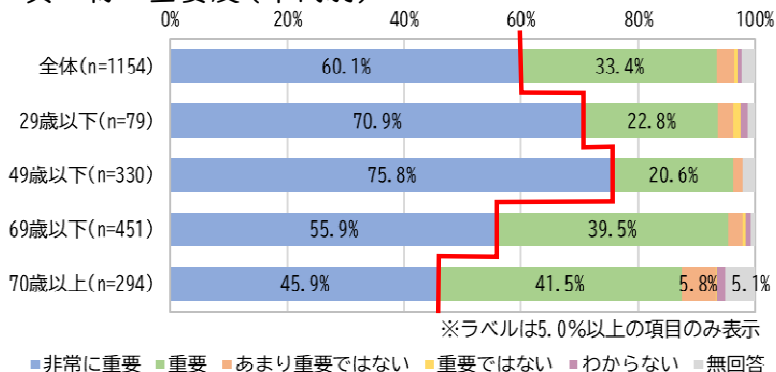
(3) 重要度

- 『日々の買物』、『病院などへの通院』、『幼稚園・保育所等への送迎』、『通勤・通学』、『公共公益施設の利用』について、重要度が高くなっています。
- 日々の買い物の重要度は年齢が上がるにつれ低下しています。

■ 日常生活の重要度



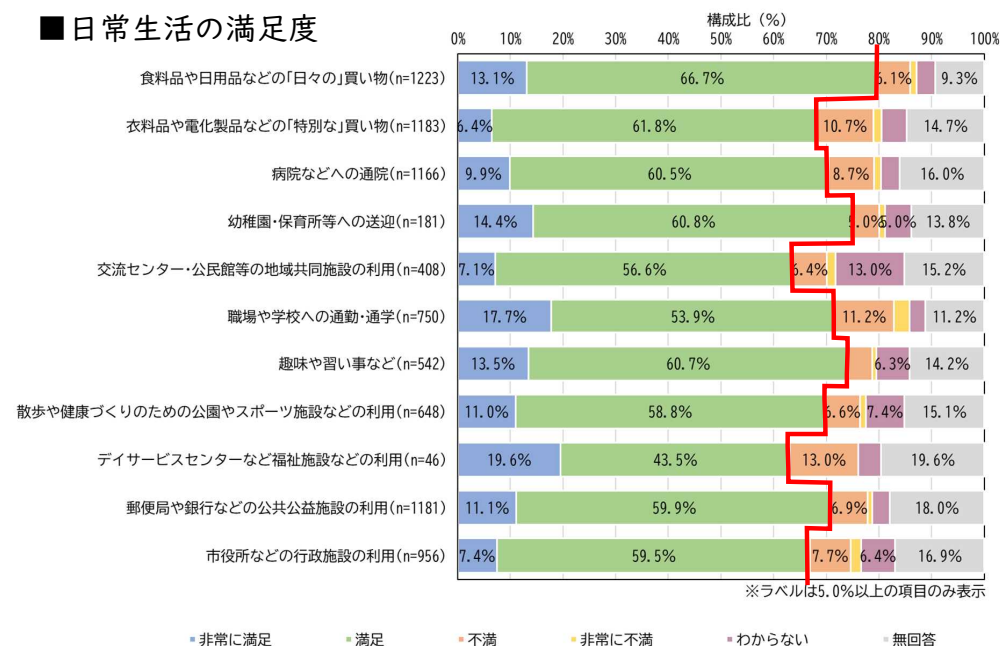
■ 日々の買い物の重要度（年代別）



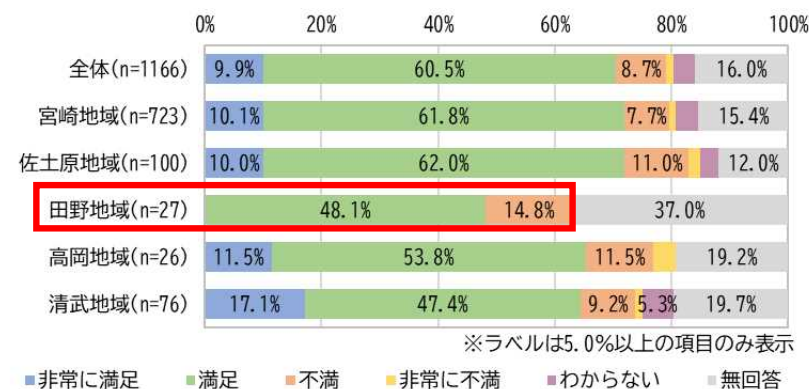
(4) 満足度

- 日常活動において、全ての活動で市民の6割以上の方が『非常に満足』、『満足』と回答しています。
- 地域別に見ると、田野地域など市の郊外部では満足度が低くなる傾向が見られます。

■ 日常生活の満足度



■ 通院における満足度（地域別）



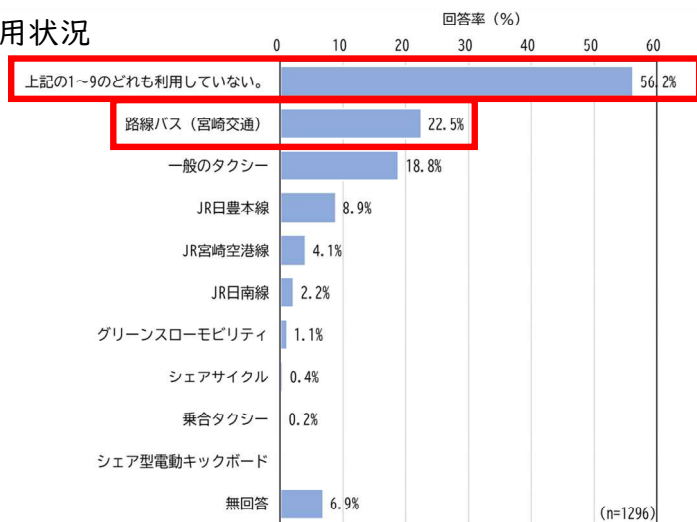
調査結果の概要

3.2 3.2.5 公共交通等の利用状況

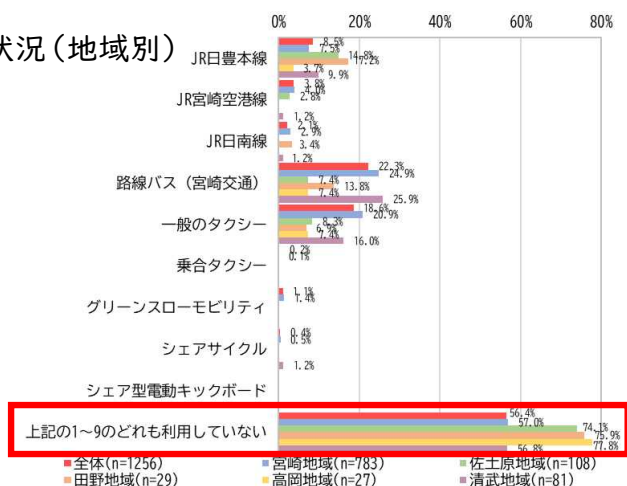
(1) 地域交通等の利用状況

- 公共交通の利用状況は『どれも利用していない』が最も高くなっています。
- 利用されている地域交通の中で、『路線バス(宮崎交通)』の利用の割合が高くなっています。
- 地域別に見ると、宮崎地域、清武地域は比較的公共交通の利用割合が高くなっています。

公共交通の利用状況



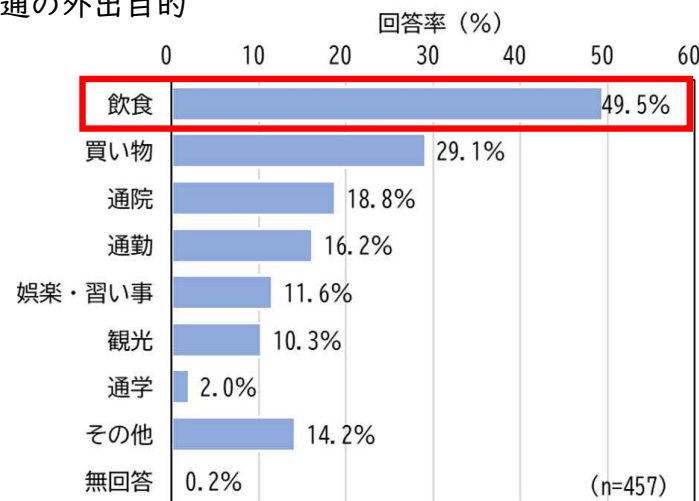
公共交通の利用状況(地域別)



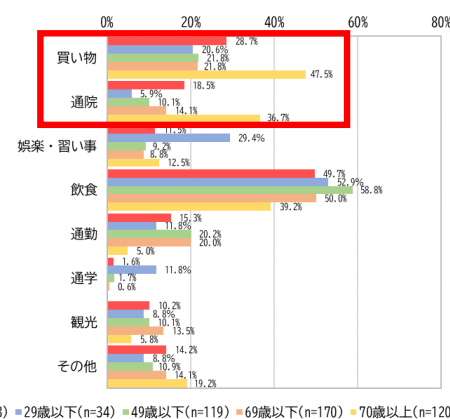
(2) 「地域交通」での外出目的

- 地域交通を利用する際、『飲食』目的での利用の割合が高くなっています。
- 70歳以上の高齢世代では、『買い物』、『通院』での利用の割合が高く、子育て世帯で『飲食』での利用の割合が高い。

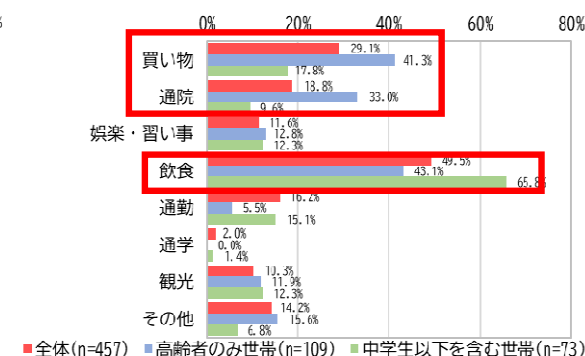
地域交通の外出目的



地域交通の外出目的(年代別)



地域交通の外出目的(世帯別)

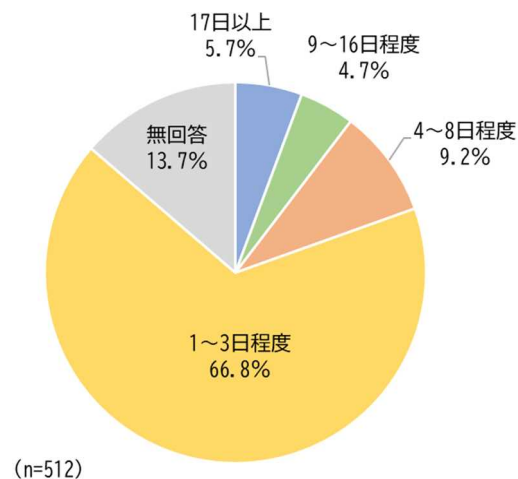


3.2

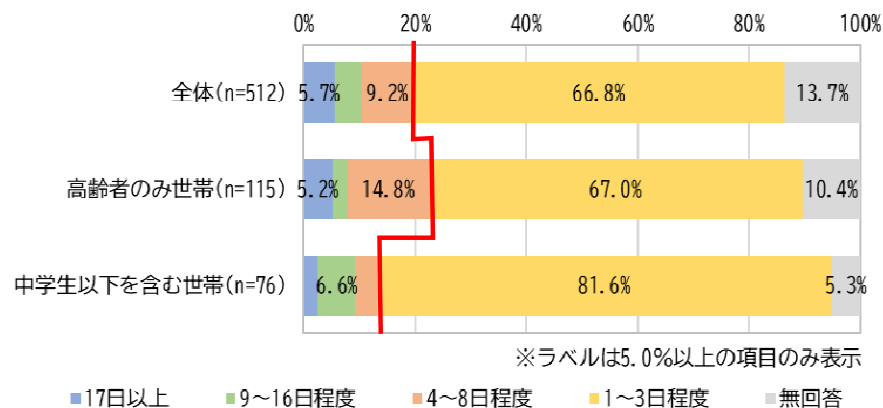
(3) 地域交通の移動頻度

- 地域交通を利用されている方の、地域交通での移動頻度は『1～3日程度』が約7割を占めています。
- 世帯別にみると、高齢者のみ世帯の利用頻度が高い傾向にあります。

■ 地域交通での移動頻度



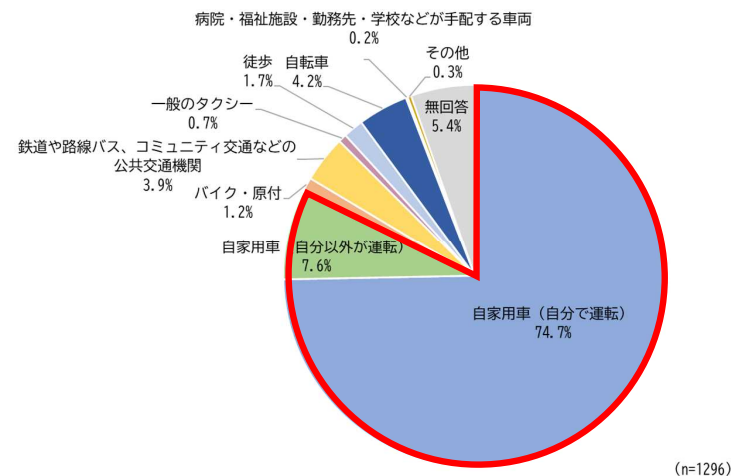
■ 地域交通での移動頻度（世帯別）



(4) 最も利用している移動手段

- 最も利用している移動手段は『自家用車（自分で運転）』で、『自分以外が運転』も含めると全体の約8割を自家用車が占めています。
- 地域別に見ると、佐土原地域、清武地域の順で自家用車での移動割合が高くなっています。

■ 最も利用している移動手段



■ 最も利用している移動手段（地域別）

